



(左から ローザ・レビン、マシュー・ピテック、クリス・ウィリス)

いの町の子どもたちに英語の指導をしてくださったクリス先生、マシュー先生、ローザ先生がこの夏に帰国されました。

3人の先生のお別れのメッセージを掲載します。一生懸命な楽しい授業は、子どもたちの心の中に深く残ったことでしょう。本当にありがとうございました。ご健康とますますのご活躍をお祈りしています。

クリス・ウィリス

この1年間ほんとにお世話になりました、ありがとうございました。本川に住むことがほんとに好きでした。人から「どちらの出身ですか？」と聞かれたら、どこに行っても僕は誇らしく「高知です！」と答えていました。学校で英語を教えることは初めてだったけど、生徒たちや先生たちとの関係はとても大切なものになりました。色々な会話や授業のことは忘れてしまうかもしれませんが、この関係はずっと覚えていると思います。

いのに初めて来た時、生徒たちは皆ぎこちなく、僕もまたそうでした！でも私たちはすぐお互いに慣れていき、授業をほんとに楽しむことができました。たまに、小学校や中学校訪問のため、たくさん準備があつていそがしかったので、教えるのが大変な時もありました。でも毎回授業が終わったらいきいきになりました。私の生徒はいい人ばかりだったので僕はすごくラッキーでした。

高知に住んでいる間に、たくさんの新しい言葉や日本の文化を生徒と先生から教えてもらいました。例えば、神谷の中学生がエグザイルのメンバーの中で一番かっこいい人は誰か教えてくれました。また、本川の中学生がプリンケツプリンケツとモンスターハンターのことを教えてくれました。自分のことも分かりました。日本の田舎を楽しめます。空気がきれいだし、人がやさしいし、食べ物がおいしかったです。そして僕は、いつか日本へ帰ってきて勉強を続けたいと思いました。

皆さんのおかげで僕の日本語が少し上手になりました。本当はまだ止めたくないんです。次に高知に帰る時は日本人のように話せるようになります！皆さん、本当にありがとうございました！

マシュー・ピテック

こんにちは！マシュー・ピテックです。私は一年前、23歳で米国はユタ州のソルトレイクシティから来ました。中学校の英語の先生として、吾北に住み、働きました。高知に初めて来てから一年間、すっかり日本の生活にも慣れたので、離れるのは寂しいです。

高知の自然はすごく美しく、アウトドアなどで楽しみました。私の心の中で、高知が一番です！いつも私を助けてくれてありがとうございました。

ローザ・レビン

皆さんこんにちは。2年間のいの町での生活はすごく楽しかったです。皆さん助けてくれてありがとうございました。はじめていの町に着いた時は日本語が全然喋れなかったの、何が起るか全く分かりませんでした。でもいの町の皆さんはすごく優しく親切だったので、いの町はいわば私の第二の故郷になりました。いの町は私のイギリスにある故郷にそっくりだから、はやく慣れることができました。

いの町の子どもに教えられる機会があったことは大変光栄なことでした。中学校だけじゃなくて、小学校や、幼稚園にもよく行ったので、いの町の生徒たちと会えなくなると思うと本当に寂しくなります。

日本全国に旅行に行き、多様な素晴らしい経験ができました。でもどこに行っても、やっぱりいの町に帰るたび、うれしかったです。将来にも機会があれば、いの町に帰りたと思います。皆さんありがとうございました。さようなら～。